

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103270		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・牛田新町①		
所在地	〒732-0068 広島県広島市東区牛田新町三丁目14番25号 (電話) (082) 511-3281		
自己評価作成日	平成25年11月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosvoCd=3470103270-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年12月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念にもあるように「尊厳を保つこと」を大切にし、特に入居者様と接する際の言動に敬意を払い、誠実さ、丁寧な介護を心掛けている。一人ひとりの思いを大切にし、本人様、ご家族様の要望に出来る限り添えるように支援している。移設して2年目になり少しずつではあるが地域の行事にも参加できている。また、入居者様の可能性、力の発揮が出来るようホームでの役割りや生きがいを持って生活出来るよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>・管理者と職員の信頼関係の中でケアに取り組み、外出・外食・買い物・娯楽等、日々の暮らしの中で「当たり前」の気持ちを実現できることを大切にしている。 ・利用者と共に生活する職員は「尊厳・尊重・利用者を人生の先輩として接し、本人の気持ちを受け入れ家族の思いにも寄り添えるように」と日々向上を目指し、家庭的に暮らしていくことを常に念頭に置いている。このことにより、利用者はありのままの自分を表出して何の迷いもなく安心して毎日を過ごしている姿がある。また、誰もがもう一度訪問したくなるような雰囲気があるホームとなっている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	5つの基本理念があり、職員全体で共有しケアに取り組んでいる。	目標と方針は管理者と職員が法人理念を掘り下げて一緒に作りあげたものである。その人の「生き方」を大切して、個性が大切にされる暮らしの実現に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流はなかなか増やせていないが、地域の行事（お祭り、運動会等）などに参加し交流する機会を作る努力をしている。	現在の場所に移転して約二年が経過している。利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように日頃から地域の行事等に積極的に参加をしたり、あらゆる機会を捉えて情報を集めて関係作りに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、具体的な取り組みを行うには至っていないが、今後関係機関と連携を取り、地域の関係作りを働きかけ行っていくと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進委員会を開き、入居者の家族の方、民生委員、地域包括支援センターの方、町内会長様等参加して頂き、サービス内容の報告、事業内容、相談を行なっている。また、様々な視点からアドバイスしていただくなど意見交換しサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、運営の状況報告と共に地域包括支援センター職員・民生委員・町内会長等の参加者からの率直な意見をもらえる、貴重な機会となっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の1ヶ月前に参加をしていただくように伝えたり、会議のあとは報告等行なっている。	運営上の課題や情報交換は、介護保険担当者と連絡をとり、運営に活かしている。また、地域包括支援センターにも運営推進会議などでホームの運営状況を伝えることで、意見をもらったりして、協力体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関、出入り口の施錠はなるべく行わないようにしているが、さまざまな入居者様の安全面に配慮し対応している。（施錠の際は、家族様には説明している）</p>	<p>運営規程にも身体拘束をしないと明記されており、研修等を通じて職員の理解を深めている。日常的ケアで身体拘束に該当しかねない行為については、具体的に注意を促している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員会議やカンファレンス、申し送りなどでケアについて協議を行い職員一人一人の意識を高めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>後見人制度については、職員会議などで学ぶ機会を作っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書を見ながら、一つ一つ丁寧に説明し、ご家族に、理解、納得していただきながら契約を行なうようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族が面会等にこられた際に会話を持てるよう職員に統一している。また、面会などが少ない家族には電話で連絡を取り状況報告を実施している。</p>	<p>全職員は、常日頃から家族の想いに寄り添いながら共に困難な介護と一緒に取り組むことを大切にしており、面会や運営推進会議等の機会を捉えて、意見や要望を聞き取っている。何でも話せる雰囲気作りが出来ており、出された意見や要望等は全職員が共有し、話し合っ運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や個別面談、ミーティング等意見や提案を聞く機会を設け、利用者様のサービス向上に努めている。	管理者は月例の会議で、職員からの意見・提案を聞き、日常業務の中から出た意見で、運営に活かせると判断したものについては、積極的に取り入れるようにしている。このことにより、職員の勤務意欲が上がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談にて職員の意見を聞く機会を設けている。職員の資格取得を支援している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	なるべく誰もが外部研修に参加できる勤務体制を整えるよう考慮している。また、毎月の職員会議の機会に相互の内部研修を行なうよう支持している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流や意見交換、勉強会などに参加できるよう、勤務体制のうえで配慮し、サービスの見直しの機会を得るようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居を決める前に本人・家族様と面談を行い、本人が困っていること、不安なこと、要望等を聴きながら、安心を確保する為の関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族様の困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、密な関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>初期対応の際は、本人、家族の思いをしっかりと聞き、その時の状態、状況に添ったサービスを提供するように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家庭的な雰囲気大切に、職員、入居者の方々が共に必要としている存在であることを伝え、本人が落ち着ける空間作り、環境作りをする事と、しっかりコミュニケーションを図り、信頼関係を築くようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>常に家族と職員が情報交換し、一緒に支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族様と連携し、入居者様の知人、親戚の方などの来訪などあり、面会時間を定めず、いつでも訪問できるようにしている。</p>	<p>本人の馴染みの人や場所について、家族等から詳細に聞いている。入居前からの知人がホームまで会いに来ていただいたときは全職員で歓待し、次に会いに来ていただけるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様がお互いのできるレクリエーションを考え、工夫し、日々楽しめるよう提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご家族様から本人様の現在の経過の電話があったり、馴染みの職員が機会を作って訪問に行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中で、本人の希望や訴えをしっかりと聞き、その人らしい暮らしが出来るよう職員会議やカンファレンスを開き検討している。	日常の会話や表情、仕草等から本人の希望を把握し、全職員が情報交換をしているため職員はホーム全体の一人ひとりをよく理解している。また、思いを直接言葉に出して伝えることの困難な利用者の場合には、日頃の言動から推し量ったり、面会の際に家族に尋ねるなどして支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活状況や生活歴を家族の協力のもとに、フェイスシートを作成し、それをもとに状態、状況を把握した上で、ケアを提供するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りノートや生活個別記録に日々変化のあることを記入し、又、申し送りや職員会議などで情報を共有し現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者様の意向を聞きながら現状で出来る事を考え、カンファレンスで職員の意見を聞き、それと共に家族へ相談、意見を聞いている。でき上がったものについて、家族に説明し了解を得ている。入居者の希望などは、日々の会話の中から聞き取るようにしている。</p>	<p>介護計画は職員の気付きや、本人・家族の思いを取り入れている。医療面では医師の往診時に相談したり、訪問看護師にも意見を聞き、モニタリングや介護計画作成に繋げている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケアについては個別記録に記入し、伝達ノートや会議録などを利用し、情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人様や家族様の状況に応じて、通院支援や外出希望など、ニーズにこたえられるように対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事などに参加し交流を持つことで、楽しみを持てるよう支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月2回の往診、月2回の訪問看護師の訪問があるが、それ以外に希望の病院などの希望がある場合は、本人、医師、家族、ケアスタッフと協議し対応している。また、他の医療関係者とも連携を図り、情報提供など行っている。</p>	<p>かかりつけ医の選択は、利用者・家族の希望によるが、ホームの協力医療機関による日常的健康管理が受けられる。緊急時は夜間対応マニュアルに沿って電話し、医師の指示により対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>月2回の訪問看護を受けている。その際に個々の入居者の状態、状況を報告し、健康チェックや相談など行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時はその都度病院スタッフの方と治療中の病状や様子を聞き、また、退院になった場合、医師と注意点など細かく相談するようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化については、入居前面談時にホームでの生活における限界について家族様に説明している。</p>	<p>利用開始時に重度化対応・看取りに関する指針について説明し、同意を得ている。具体的支援については、本人・家族等の希望やホームの受入体制のもとに、協力医療機関のアドバイスを受けながら出来る最大の支援を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変・事故発生マニュアルを用いて、職員全員に周知徹底しているが、定期的に学習の機械を持っていないため、勉強会などで身につけていくようにしていきたい。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年に2回の消防訓練を行い、その中の1回は地域の方にも参加して頂き、消防訓練を実施している。</p>	<p>年2回は消防署の協力を得て、消火器の扱い方・通報訓練等をしている。運営推進会議では、地域の防災について話し合ったりしており、地域の方の参加に繋がっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの人格を尊重した声掛けや対応ができるよう心掛けている。	相手の目を見て話す、排泄に関することは周囲に聞かれないようにするなど、基本的なマナーが守れるように実践がなされている。また、職員は利用者一人ひとりを人生の先輩と考えて大切に思いケアに取り組んでおり、多くの利用者からホームで良い出会いがあったとの声が聞かれた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様との関わりの中で希望や思いを気軽に言えるように努め、できるだけ希望に添えるよう支援している。職員や、家族の方にも協力していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人様の生きがいややりがいを見つけ出し穏やかな生活ができるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思で衣類などを選ばれる入居者様についてはその意思を最大限尊重している。選ぶことが困難な入居様には本人と職員と一緒に選び支援している。また、美容院などの要望等があれば付添にて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りを共に行う事で食事に対するの楽しみを提供している。また、日々の食事準備、片付けなどを一緒に行っている。	利用者の好みを把握し、好き嫌いにも考慮して献立を作成している。食材の下ごしらえや味付け、配膳、下膳等は利用者と職員が協力し合い、同じ物を楽しみながら食べている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取については，個別表に食事摂取量を記入し，栄養バランスについては，献立表に記入している。食事について，食べにくいものは切るなどし硬いものは柔らかい食べ物で提供するなど工夫をしている。。水分摂取についても，食事時，おやつ時，入浴後など十分に摂っていただくように声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎週水曜日に，歯科往診があり，口腔状態の確認を行い，歯科医，歯科衛生士からの指導等行っている。また，食後には，より良い口腔ケアになるようにひとりひとり状態に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレに行くことを基本とし，その入居者にあった時間や声掛け，誘導を行いながら，自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンをよく把握した上で，トイレでの排泄を基本としている。例えば1度は紙パンツを使用していた人でも，能力や必要性について検討し，布パンツの使用に戻ってもらったりしながら，自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事に食物繊維の多い野菜を提供すると共にバランスの摂れた食事を提供している。また，散歩や軽い体操などを行ない，便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者様の状態に合わせて，週2～3回の入浴を実施している。本人のペースで，リラックスできる入浴を目的として行なっている。また，体調をくずし入浴できない場合は清拭をし清潔保持に努めている。	毎日の入浴は難しいので曜日を決めての入浴となっているが，その日の状態や気分によっては洗浄だけにするなど，個々の状況に配慮して清潔保持に心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>就眠時間など一人ひとり合わせ対応し、本人様のペースで安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の説明書を保管し、職員が薬の情報についていつでも見られるようにしている。また誤訳がない様に、服薬の前に職員が二重の確認をし服薬介助している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居者の個々のレベルに合わせ、得意な事、できることを支援し、感謝の気持ちを伝えている。又、そのことが困難であっても、本人が懸命にしていることは、見守り支援している。気分転換に近所へ散歩に出掛けたり、買物に出かけるなど行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>近隣に散歩に出掛けたり買物に行くなど外出の機会を多くしている。</p>	<p>気候や天候及び利用者の気分に合わせて、可能な限り近所の散歩に出かけている。また、利用者一人ひとりの希望を把握し、職員と共に食事に出かけるなど可能な限り個別支援に取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金の自己管理は、ご自分で管理することが困難な方が多くトラブルになりやすいため、お金を持っていないと落ち着かない方など、家族の同意を得た一部の入居者のみで、基本的には、立替で行っている。(家族の承諾を得て行っている)</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話をかける際はまず職員が家族と話をし、それから本人様に代わって対応している。手紙は書いたものを預かり職員が宛名を書いて送るよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>照明は全てLEDを設置しており居室、廊下、リビング等明るくしている。また、月の行事の写真リビング等に貼るなどし、入居者の方々と一緒に楽しんだり、毎月の季節に応じた壁画や折り紙で作成するなどし、できあがったものをリビングや廊下に貼りつけて飾っている。</p>	<p>居間は日当たりが良く明るく、利用者はテレビを見たり、寛いだり、ゆったりと自分のペースで過ごすことができている。また、清掃は行き届いており気持ちよく生活が出来る場所となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや廊下、玄関前などにイスやソファを設置し、入居者様が気軽に過ごせる空間づくりをしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>親しみあるものを家族の方に持ってきていただいたり、いままでに使用していた物などを使用するなどし、本人様が居心地良く過ごせる様工夫している。</p>	<p>ご自宅で使い慣れた馴染みの物を配置し、自宅での生活環境に近づけて、気の安まる場所となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室の出入り口には表札をかけた本人様に分かるようにしている。リビングやトイレ、お風呂などにも分かりやすく目に見て判断できるようにしている。出来る限り入居者の方々の残存機能を生かすことが出来るよう職員で検討し自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ牛田新町①

作成日 平成 26 年 1 月 31 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業者と地域の関わりは少しずつ出来ているが気軽に地域に出て行ける環境にはまだ至っていない。	地域の方々が気軽に立ち寄れる環境づくりと共に利用者様と顔なじみの関係を作れるような事業所を目指す。	地域・大学のボランティアの方々に声を掛け施設に来てもらい実際に関わってもらう	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひなたぼっこ・
牛田新町②

作成日 平成26年1月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域の関わりは少しずつ出来ているが気軽に地域に出て行けるような環境にはまだ至っていない。	地域の方々が気軽に立ち寄れる環境作りと共に利用者と顔なじみの関係を作れるような事業所を目指す。	地域・大学のボランティアの方々に声をかけ施設に来てもらい実際に関わってもらう。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。